

インターバンクの声（2015 年 3 月 20 日）

昨日、米連邦公開市場委員会（FOMC）を終えてからのドルの主要通貨に対する急落は、多くの市場参加者が想定した以上の規模となり、ドルが元のレベルに戻るには少し時間がかかりそうだとも思われた。しかし、アジア市場が本格的に稼働し始めると、ドルの買戻しが極めて強いことが確認され、東京の夕方頃には FOMC の声明発表前の水準までほぼ回復してしまった。結果論にはなるが、ドルが想定以上に下落したことで、一旦膨らみ過ぎていたドルのロング・ポジションが軽減されたことと、値下げ幅は大きかったもののチャート上の鍵となるポイントを超えずに済んだことも心理的に買い戻しをし易くしたのかも知れない。再びロンドンやニューヨーク市場に戻ってからの更なるドル買いというわけには行かなかったが、市場のドル投資意欲は引き続き結構強いようだ。いよいよ国内は年度末、海外も第 1・四半期末が近づいており、ややトレーディングの勢いが低下する時期に入るが、市場は改めてギリシャ問題、ウクライナ・ロシア情勢などに目を向けることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。